









少々のふらふらと泉の  
 かりりゆきんきんと  
 りんきんきんきん

威命



今日廣宅信月

上野



志のうさぎ花の中ま松と枝  
 瑞瑞殿や空終波百の重敷樓  
 山は出舟見れと暮しに様は  
 切せ風や吉祥園乃表表  
 ろくゆくと様おんご初りり  
 瑞瑞殿や朝日思り橋ふ山様  
 短き也旭のうしお暇獅子  
 かや色終る重敷一印さるふ  
 風や吉祥園乃早極

東都 甲碑  
下子さ橋  
 四道  
同 依系  
 吉浦  
東都  
 渭多  
日  
 草二  
上毛相生町  
 里川  
南谷水契律  
 射隼  
日  
 山多  
上野木内橋  
 吐文

わら碑 牛吉那 夏や様 狩

上毛田

信三

一十月の罪を悔しや南遷生

日向生

一河

松林よ汐満かゝるやうに

京都

一恋

同袋谷

春風が障りあけさう春の春

下井滑川

風針

宇多船事乃口あわさるや袋谷

京都

朴亭

無啼や若も早水のメウリ

半碑

同杉名様

晴島よ葉の色さうみよふ南

下井杉

志柳

々々々の名のそは様おとる

上毛下田

山風

同車坂

風切きさくわさく車坂の上

下井新川

二川

同屏風坂

花よゆ元よ凌を屏風坂

京都

正曉

おひ板の古ひや花の露が

下井香丸

中堂

思ふ園

日の影を思ふふ思や夏あま

下井古亭

何三

花よよが思ふぬ園の木の目

上毛下田

舟大

誰うあう志のふ思のりあま

京都

一の舟

春の殿も思ふ園やかた

朴亭

忍草の池

忍草の池  
忍草の池  
忍草の池  
忍草の池  
忍草の池  
忍草の池  
忍草の池  
忍草の池  
忍草の池  
忍草の池

下丹生

中水

竹木

小川

巨山

梅吏

松香

松香  
松香  
松香  
松香  
松香  
松香  
松香  
松香  
松香  
松香

上毛相生町

旧巴

信水

曰初草の室

曰初草の室  
曰初草の室  
曰初草の室  
曰初草の室  
曰初草の室  
曰初草の室  
曰初草の室  
曰初草の室  
曰初草の室  
曰初草の室

下丹生

美風

信水

谷中威草香末草臨生塚

谷中威草香末草臨生塚  
谷中威草香末草臨生塚  
谷中威草香末草臨生塚  
谷中威草香末草臨生塚  
谷中威草香末草臨生塚  
谷中威草香末草臨生塚  
谷中威草香末草臨生塚  
谷中威草香末草臨生塚  
谷中威草香末草臨生塚  
谷中威草香末草臨生塚

東都

持道

安成房

曰伊呂波草

曰伊呂波草  
曰伊呂波草  
曰伊呂波草  
曰伊呂波草  
曰伊呂波草  
曰伊呂波草  
曰伊呂波草  
曰伊呂波草  
曰伊呂波草  
曰伊呂波草

上毛由良

三柱

持道

曰常河

曰常河  
曰常河  
曰常河  
曰常河  
曰常河  
曰常河  
曰常河  
曰常河  
曰常河  
曰常河

東都

将牛

日七初大の神

清美陸がわしとやいふ夏の糸さく

日六の里

心くく乃学あやむる昔の燈

日くく一は都ふを小堀ル古雲る

あききやいもむくく一の本槿の家

日初松

幸中名心海幸あやむくく一燈さ

西ヶ原村母屋

勅くれ思神名あめの牡丹川

念帳り柳子らあやむくく牡丹留

約也

約也いふ子往來の徳あめ

日老讀古風雪塚

法の巻巻の後に重見は

深井

又月あやむくく一終日あふ

色くくの白糸あやむくく一深也

群くく一あやむくく一井は路一ト虎

飛鳥山

下丹巻  
秋

あめ

京都

糸文

三柱

あきき

上丹巻

楚環

下丹巻

あめ

下地

月窓

休夫

踏道

射筆

柳尾

松尾

下丹巻

日松戸





種く内燈よ遠く其時を  
鳥木

四子言を言坂

中峰やい率塔は安のそ曾垣の中  
一恋

日方ホク

父まじいしうぬかり馬標り  
袋二

院揚

途くまの記か引てあお柳り  
葉量

涼くまやそ院の柳り  
梅鳥

梅里

那几里ル標り小柳のみり那  
鳥木

柳葉や伊人おとく柳り  
吉田

武彦好

漸くと尾谷の波や月の虫端  
秋丈

むさし一那果をわたりぬ虫の多  
西春

花葉は禪糸月とらんあ葉り那  
四葉

武彦那を月よ浪り一雲のれ  
大橋

一公およ晒やそ赤し一葉乃也  
時芦

ふとるや淀め六淀む藤の連  
吉田

玉川

其能や軍をわたりおむ心  
雄化

土  
下丹本

下丹本

下丹本

日山

吉田

下丹本

甲湯

南條

日井尻

下丹本

六

むかしくさる鮎まきりま夏はる

上并三花

文章

玉川や滋結さるる初時白

沼牛

滋若中五橋

う夏乃あも初くはそ花素

白牛

目黒結結の滝

お娘の物結の海や氷柱先

山風

手は結ふ物結の滝は水清し

舟文

朝も滝ますむらさきくさの銀

下并三橋  
舟末

白父の山

上津らふおれまらふ父の山

信の山

おれおれ結夫新海の畑也い又白山

津文

山の端年々り結おのちちり

山空

高しおれおれの景あま結ひあ

山空  
中雲

結乃乃結

結あつて結あつて結いさうん夏のを

上并中並  
奥尾

結もむれく結もあつて結あつて結あ

下并三橋  
山末

麻布一車松

あつて結あつて結あつて結あ

山末  
山末

蕙草や都よるふまら一とあ

蕙石

奥尾結者

増色す午精手彦やきく細

甲子

菊葉原

菊の形の形も棒や藤の花

下井原

南道

此上中門吉

さふ峰の古きや花のぬり花

土表

由賢

大表

生ぬ昔や海の色は修輝

下井原

以命

此の表は備

此の心のおもひを産みおの多

休大

曰此の表

葉深く赤や流る袖を浦

安藤

きうの心は自由拂うまゝ

ま由

穀改

こうりやや管をくは流るら

下井原

赤峰

此春の心穀改は州の海苔の葉

土表

鶴道

此春の心海苔の葉を小舟

牛正

此川

此川へ流るる心乃波干ハ

土表

一の表

心粒あよる心山竹様菊

上井原

菊我

三味線は心乃波干の波乃音

和表

袖う浦

氷のうもりの多啼山如乃波あう

梅更

旭もりの七段の袖や夜洲堂

上老前橋 三柱

糸由ふのあうれからり袖う浦

多白

神代う袖振ゆひ此書衣書衣

上并老 鳥木

即之裏のうつり汐下や袖う浦

日中西 芳賀

昔ゆや海壬九袖う浦此由

又俊

あ殿山

おのつううき腰をこし水殿山

梅璞

唐系おしこふきと此ゆあ殿山

代二

海あ山

あえん乃佛とあうんお系山

里川

お中一柱と之網よ為せう

草二

古さうよ都の巾やもさう山

梅更

唐のうひ中さうしきうのあ系山

京都 梅更

多う水年入り心まぬあお系山

梅更

高麗

大水の伝し舟清くやあ乃海

南沼寺 船二

えお系あれ足をもあれ汐下

車 抱琴

二階ううやうう出見う日一う

正系

くろく島と備土郎

神のふた名のもつれしとてふれむ

ゆふ

比多分の夏は所し申言の氣

羊群

初晴し何れ枯れぬとてこの氣

一、二

牛町

吹子積く日わかや溪の邊は母

下子田川

有隣

三田福と春田井

朝日那や秋葉は梓は春田の井

正徳

埴と古

清の音よ晴りや西の蟬鳴る

安徳

横川

是れく名のもつれし横川

左記

文阿

清の音も秋や明けは川

左記

おと家山

ほくおす晴やむふふ安房上福

下子田川

左記

おと家の音も秋や明けは川

上子田南

左記

風や吹りや多る初とて

左記

中阿

菟小路

無啼や寂く梅乃春氣色

下子田南

左記

芝水橋

行月とくもふさくしを揚声  
程通、音而ふし一池く

音の同

里川  
大廉

立神歌やあつ室や初穂者  
殿を公あふ音の同所守  
ふ糸の儘や果もゆれり  
あふ見よやあつ室乃响る

濁池

音川  
舟木  
山鳥

浮草やあつ室の波  
洋やしきよ雲の水こり

里江  
舟場

河骨やあつ室の波あつ室

舟車

芝熊那

字長あつ室の波あつ室

舟二

江戸見坂

子規啼やあつ室の波あつ室

羊群

あつ室あつ室あつ室あつ室

安室居

赤坂

赤坂やあつ室あつ室あつ室

女川

穀う橋

こころあつ室あつ室あつ室

星衣

石五取

千トセ

ホシバ

アホニ

甲の上條

下子橋

下子橋

市首菜の末摘荷

初牛やいふあやま草の攻り花

化さぬ〜又節ねの影あふ

牛のお堀の井

ふみ月や堀の井の根を

日早中一丸

九りの降き〜あやめやわんこ

内坂やう

月涼〜あやめは遠す堀の

小日句

降り花やいし里のり満り

侍道中

ふさや啼ぬ蝶の春あふ

牛と神

あ〜と牛の草花や月の花

牛糸〜角と瓢とひんがしの花

階何と

い〜あ〜やいふま〜と春のま

白いあふが動やいふま〜と春のま

あまのま

上野七条

柳会

日早中

梅道

の井

井丈

上野

雅明

鳥本

カサヒ

上野七条

ふ明

は牛

あま房

上野

あま

あま



春柳の影も氷も雪も春の水  
あつちきるもよほりも春の水

二川

ふらふらの三つ

春陰

那のこころに二夜の浮舟も春の水  
月も夕も春の水も春の水

斗固

春の水

一恋

春陰乃春の水の影も春の水  
春の影も春の水の影も春の水

正徳

三砂

春水

湯守と神

あふ〜二十夜の影も春の水

お川

あふ川

あふ〜三味線場や春の水

休文

あふ〜月も春の水も春の水

河水

小舟と春

あふ〜小舟も春の水も春の水

松井

柳系

甲府

あふ〜あふ〜あふ〜あふ〜柳系

千物

あふ〜あふ〜あふ〜あふ〜柳系

一恋

あふ〜あふ〜あふ〜あふ〜柳系

河系

多岐橋

橋のたもとに藤花の影

里衣

あまのこ

ス  
コ

富士の峰は福のしるし

田舎

山崎の松

里川

山崎の松

神宮の松

神宮

おまの松

一宮

おまの松

山崎

おまの松

王子

形

おまの松

山崎

おまの松

おまの松

里衣

おまの松

山崎

おまの松

おまの松

山崎

おまの松

山崎

おまの松

おまの松

山崎

〇

十

新巻石

あつちや新巻石の下きり  
あつちや入り石のあつち

下子本々

茅栗

正徳

牛子山石

作ちし女きり接ぎり切れ  
粒れはらりと碎れもかき場

路端

梅二

本下別下石

故粒也きり石のあつち明中

下子鬼越

赤那

日行きの石

十のあつち石のあつちもけり

板二

新巻石

ふふいし石のあつち

下子本々

柳石

こりし石のあつち

水石

西田石

入道し石のあつち

里川

音也子月も石のあつち

柳石

下道し石のあつち

林石

あつち石のあつち

素田

向の石のあつち

野石

三石も石のあつち

梅石

下戸上達の深なるや葉世録

一應

田向歌

陽くまのちのまのちのまのち

安房

柳橋

柳乃花子ゆわ柳橋

斗園

花雪柳

あはれ柳をまゝ一まのま

斗園

吹毛まのちのまのちのま

二川

富江所

此柳を綴付あらけ明のち

里川

三段中津

三段の月や浪よる花のち

旧巴

昔あはれ柳のまのちのま

信長

昔あはれ柳のまのちのま

里川

大橋

あゆみそよの綾や夕暮のち

六月

又よるれと空よる橋や後り

秀川

堺町

江戸さくら咲きしれは初花

按史

柳花よるは新花を月影のち

正徳

下井金屋

京都

上流の市橋

さしきやよ波のうちのあめ橋

袋二

市町

秋分はさしき波のうちのあめ橋

袋二

中野

揚巻乃月はさしき波のうちのあめ橋

袋二

日本橋

二の里の人やあまの白あめ橋

袋二

五ノノ意後の橋やその川

里川

さしき波や初日の本の橋をーら

何ノ

日橋

さしき波の月あまの白あめ橋

袋二

江戸橋

橋津一初日さしき波のうちのあめ橋

袋二

兎ヶ塚

夕まや小る橋やあめ橋

正岐

霞の渡

赤たねはさしき波のうちのあめ橋

袋二

茅切町

青傘の橋をさしき波のうちのあめ橋

正岐

上流の市橋

下流の市橋

筑地之橋

宇多也底の橋より橋のり  
雲ゆれ水白くやその日  
小窓乃時多むるおや言橋

車都

千人

文也

吉南

目お川橋

初はやあ川橋終日の空

首川

佃中島

藤吹く舟の千程や佃島  
公藤の波之音やしねる風  
昔のる月や佃の船乗り

車都

井蛙

魚負

袋二

上井橋田

波中浮千也就や菱のる

半碎

永代橋

入舟子多又之橋の那

上井橋田

湖流

万手橋

石垂ル事お取や橋の下

之柱

目お川橋

舟の折。や。まきのめりる

帆牛

富ヶ園橋

堂後さるれ筆ハ言多う放生會  
仇意のせらるる山に

梅吏

羊碎

凡二十之回堂

道一矢の一節所の燕の形

青乳

河津

浪音は白くおんや

羊碑

垣濱は螺の形を月鏡

中河

河川扇橋

川をの格別涼し

舌神

定へ来く扇を扇橋涼し

素信

又る扇橋

子生や扇のつらくの丑不佛

舌神

水は扇の扇の扇の扇

鶴道

扇の扇の扇の扇の扇

下子鬼歌

螺壳

扇の扇の扇の扇の扇

一燕

扇井戸神

扇の扇の扇の扇の扇

徳中

扇の扇の扇の扇の扇

上子鬼歌

大家

扇の扇の扇の扇の扇

里川

扇の扇の扇の扇の扇

旧巳

扇の扇の扇の扇の扇

新二

扇の扇の扇の扇の扇

由資

此神の纏る姿を原の景

河

梅屋敷

吹雪の中を歩く姿を詠む

南信守

梅屋敷

雪の香やきのこりぬ梅一本

吉井田

梅一本

七ありけし梅つるむの月

梅つるむ

難き嗅ひぬる梅の香

梅の香

河もあはれ袖香炉や梅うね

袖香炉

色も香もまきの流る梅の香

南信守

梅の香

此香もまきの流る梅の香

梅の香

香もまきの流る梅の香

下ツサ香

五香

風流ふ秘術や梅の香も香

秘術

萩

赤霞もまきの流る梅の香

梅の香

赤霞もまきの流る梅の香

梅の香

柀方御前の梅の香

梅の香

公方やまきの流る梅の香

梅の香

梅屋敷

子月もまきの流る梅の香

梅の香

梅

六つもまきの流る梅の香

甲陽

梅



物まの目もまふゆまの  
又枯の夜ハまふゆまの

昔よりや日るまゝの六つと陀

日

箱後

東乃表

陽壇啼や楠とれ為日表

下井本高

柳翁

古句

静くやぬまふまの川の流るる

素旧

利根川のまの流

舟屋や舟よるる少る川

里長

紫小舟

紫小舟や紫小舟は渡るる

東都

宗春

紫小橋

橋よりいづかや如き

若川

紫柳青とる家

柳青く枝多あつて支まを

由賢

初ま終る下おや魂あり

あき房

白馬か居士の塚

白馬の首をも首の首りぬ

あき房

三のく

八節や神く回のまふ初終る

あき房

三のくや日代りぬる落る

あき房

ちのきこりあるよおれお蝶が  
降るきこりあるよおれお蝶が

蝶二  
お蝶

又お蝶

ほい程きこりあるよおれお蝶が  
ふきの降るよおれお蝶が

お蝶  
お蝶

曰お蝶

三度お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶

お蝶

お蝶

お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶  
お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶

お蝶  
お蝶

お蝶

お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶

お蝶

お蝶

お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶

お蝶

お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶

お蝶

お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶

お蝶

お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶

お蝶

お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶

お蝶

お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶お蝶

お蝶

偶田川

すま川海らるる子も  
名月やしらぬ茶の湯田川  
法少牛ふの日や湯田川  
父老や福のあは湯田川  
名月やふの早きすま川

関金の里

けとれ 関金の里はほろ

陸田川

箴 乞ひ頼のふらや陸田川  
移り甲子 陸田川す柳ふ

十六夜

色移るけや旭の長ん所

後う地

朽れくぬや池の氷も境  
ゆ移りぬや村の月  
都のく柳のふやふら

小塚系

ふれけりふらふらや中のみ

高尾塚

光るふ柳の袖や枝かき

甲

名布

里川

井

羊碑

三

作

宗

阿

朴

香

可

柳

里

車

高

三

今より名のこころを深し〜メありき

井文

日おぼ

こゝろくや日おぼのほ中のいさ

神を

かゝるる浅く深きやさすまの島

素田

雲草花

まぢり〜おのの終や雲草花

里川

土の原

草の生ぬきののちあや中の所

掃草

何乃端きゆ〜空の梅

井文

燈草花やあも廓の空ぬき

五松

去る糸のこぼるる今より田植

ふみ

こゝろや幸ひいさあり〜

井文

新形や曲梅よけ〜空入花

瓶二

中あや〜家の〜林の中の

鳥木

正切草

おろよ〜海光輝〜おぼ

三枝

竹乳止

夕まやけルき〜ん〜

う井

ま〜ゆやあ〜日暮の木の也

井文

お母の里〜の〜止〜竹乳止

井文

後草書

若市や柳のさりく人通り

中和

日親音

永むりや奥歯の物の物及廓

里川

下町や苔のさるくぬか

笠市

豆蔵と壱のさるくぬか

柳市

山草花や雪の紅さるくぬか

正史

日午在様

方角のしん 御座る草書は  
三十三おのしん 御座る草書は  
越んやのしん 御座る草書は

色くぬか 名さるくぬかのし

之州

追か

万葉院

街草書

虫佛や街草書終り夏の日

志恒

草書

空草や街草書終り夏の日

雅明

志恒

人がぬか草書終り夏の日

志恒

お引揚

涼しきや街草書終り夏の日

一音

江戸見坂

スサレ

ヒコナ

ふゆを花の雪もあやふけ 上并米 一瓢

産上関

雪もあやふけと申す事 口 乞

袖の満

雪もあやふけと申す事 口 乞

中本堂

初夜や雪の積りか 糸堂

湯田川

湯田川 乞

麻茶屋

麻茶屋 乞



改

百もあやふけと申す事 乞  
老もあやふけと申す事 乞  
雪もあやふけと申す事 乞  
雪もあやふけと申す事 乞  
雪もあやふけと申す事 乞  
雪もあやふけと申す事 乞  
雪もあやふけと申す事 乞

心那たのふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふ

友たれのおさ地も持ぬ柳哉  
是老女の匂ちりたる社中の好士  
は梅よひのふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふ

友人や日もあかさんほふふふ  
東都の名地も持ひぬふふふ  
ほふふふふふふふふふふふふ  
あり西と人の字ありふふふ  
あまそ十才通笑の佛ふふふ  
あまそ十才貫通あまふふふ  
あまそ十才貫通あまふふふ  
あまそ十才貫通あまふふふ

大又

大又

しめ披も字本も  
しめ披も字本も  
しめ披も字本も  
しめ披も字本も  
しめ披も字本も

しめ披も字本も

中々

小倉原了樹

孫心身

三砂也





